

証券コード：4406（東証スタンダード）

2024年3月期

# 決算説明会資料



2024年6月6日

代表取締役 社長執行役員  
三浦 芳樹





- 2024年3月期 決算概要
- 2025年3月期 業績予想
- 中期経営計画（2021～2025年度）の修正
- 参考資料



## ■ 2024年3月期の通期業績は減収増益

売上高	営業利益 (△は損失)	当期純利益 (△は損失)
328 億円	3.6 億円	2.2 億円
前期実績 331 億円 △2.4 億円 (△0.7%) 	前期実績 △4.3 億円 +8.0 億円 ( - %) 	前期実績 △4.4 億円 +6.6 億円 ( - %) 

## オレオケミカル

### 環境

- | 工業用途は低調に推移した一方、インバウンド需要は回復傾向

### 概況

- | ステアリン酸事業撤退（2023年6月）などの影響で数量、売上高ともに前年を下回ったものの、他製品においては適正価格を維持および販売シェアを堅持

## 合成樹脂原料

### 環境

- | 自動車産業は回復傾向
- | 半導体材料メーカーの在庫調整が一巡し緩やかな回復傾向

### 概況

- | 一部製品の製造拠点を集約し生産効率向上
- | 自動車塗料向け製品が堅調に推移したほか、電子材料向けも回復基調にあり、数量、売上高ともに前年を上回る

## 可塑剤

### 環境

- | 中国経済の回復遅れにより供給過多に陥り、海外市況が下落
- | 低迷していた国内需要は下期にかけ徐々に回復

### 概況

- | 主要製品の製造拠点を集約し生産効率向上
- | 輸出は大幅に減少したものの、国内需要が回復傾向にあったため、数量、売上高ともに前年並み

## 機能性化学品

### 環境

- | 国内エチレンプラントの稼働率低下により国内需要は低迷
- | 欧州でのポリオレフィン樹脂の需要は、上期低迷するも下期に回復

### 概況

- | 主要輸出先である欧州での需要回復により結晶核剤の販売が伸長した結果、数量、売上高ともに前年並み

- 販売数量、売上高ともに前年並み
- 自動車産業向け樹脂原料をはじめとする高収益製品の需要回復と全社的なコスト削減により収益は改善

（単位：百万円）

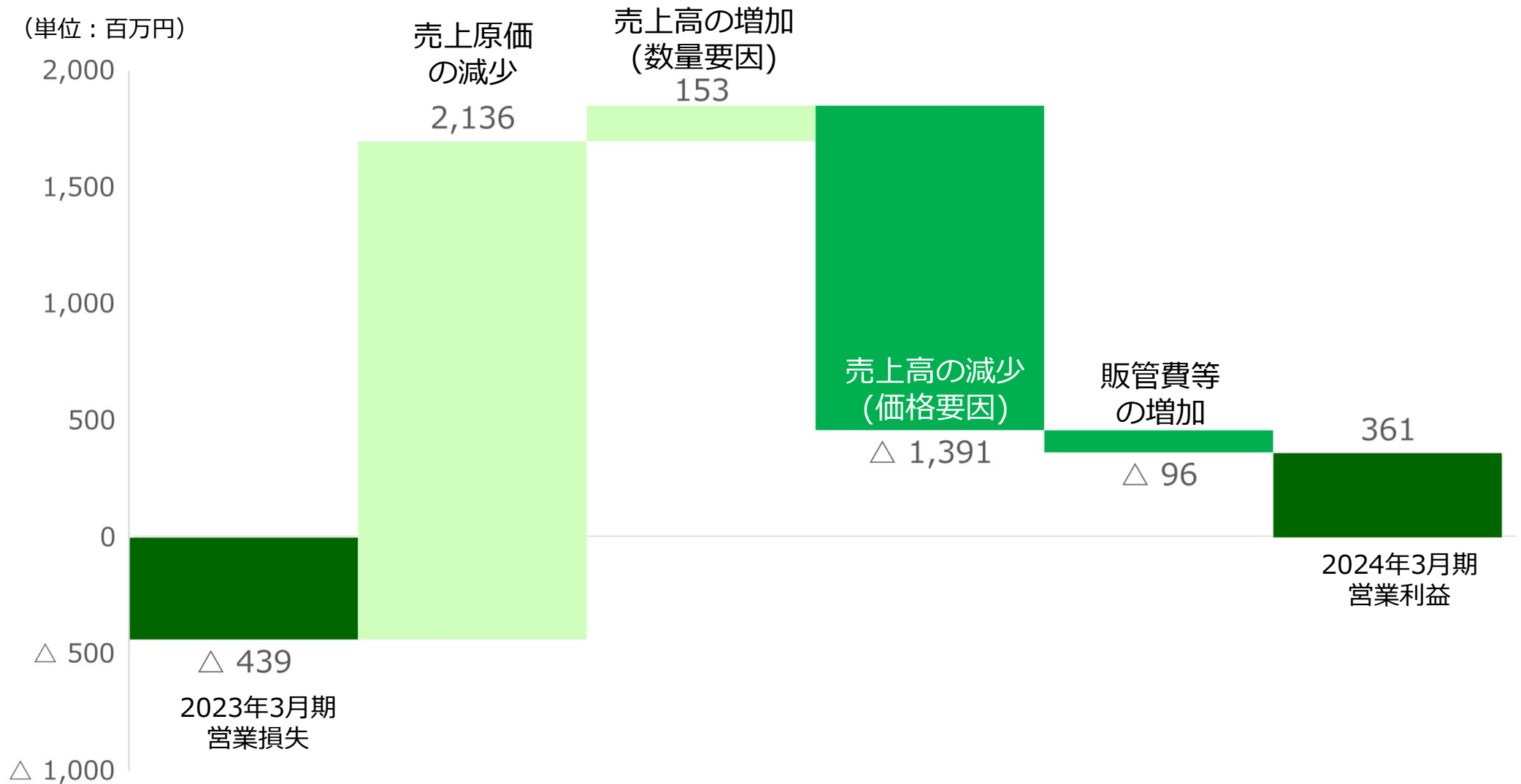
	2023年 3月期	2024年3月期			増減	
		当初計画	修正計画	実績	前年度比較	修正計画比較
売上高	33,105	37,000	32,000	<b>32,863</b>	△242	+863
営業利益 （△は損失）	△439	500	0	<b>361</b>	+801	+361
経常利益	105	900	300	<b>780</b>	+675	+480
親会社株主に帰属する 当期純利益 （△は損失）	△444	600	100	<b>220</b>	+665	+120
1株当たり 当期純利益 （△は損失）	△11.92円	16.09円	2.68円	<b>5.92円</b>	+17.84円	+3.23円
国産ナフサ（¥/KL）※ （1～3月平均）	66,500円	-	-	<b>72,500円</b>	+6,000円	-

※出展 財務省貿易統計



# 営業損益の増減要因（対前年度）

- 売上原価減少の主な要因は、原料価格の下落と生産拠点の集約などによる製造コスト削減によるもの
- 収益性の高い製品比率が高まったことも相まって収益は改善



- 持分法による投資利益の計上などにより、営業外損益は+ 4 億 1 千 8 百万円
- 事業再編損および減損損失の計上などにより、特別損益は△ 2 億 6 千万円

(単位：百万円)

営業利益	361
営業外損益	418
経常利益	780
特別損益	△ 260
法人税等	182
非支配株主に帰属する 当期純利益	116
親会社株主に帰属する 当期純利益	220

(単位：百万円)

営業外損益	2023年3月期	2024年3月期	増減額
受取配当金	161	167	+6
支払利息	△ 51	△ 47	+3
持分法投資利益	401	228	△173
その他	33	70	+37
合計	544	418	△125

(単位：百万円)

特別損益	2023年3月期	2024年3月期	増減額
事業再編損	-	△ 229	△229
投資有価証券売却益	17	221	+204
投資有価証券評価損	△ 20	-	+20
固定資産除却損	△ 56	-	+56
減損損失	△ 276	△ 253	+22
合計	△ 335	△ 260	+74

- 流動資産：現預金および売掛金などの増加
- 固定資産：投資有価証券の時価上昇などにより増加
- 純資産：利益剰余金の増加および投資有価証券の評価差額金計上により増加

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減額
総 資 産	38,553	40,114	+1,561
流 動 資 産	18,987	19,845	+858
固 定 資 産	19,565	20,268	+703
負 債	21,598	21,637	+39
流 動 負 債	12,532	12,837	+305
固 定 負 債	9,066	8,800	△266
純 資 産	16,954	18,476	+1,521
負債純資産合計	38,553	40,114	+1,561
自己資本比率	41.2%	43.1%	-



- 現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ9億2千3百万円増加の36億9千5百万円
- 財務活動によるCFのマイナスの主な要因は、借入金の返済によるもの

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期
営業活動によるCF	104	3,578
投資活動によるCF	△ 659	△ 60
財務活動によるCF	△ 3	△ 2,596
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 557	923
現金及び現金同等物の期末残高	2,771	3,695

## ■ 期末配当について

安定的な利益還元を実現するための経営基盤の確立には至っておらず、財務体質の強化が急がれること、また、新規事業立ち上げの設備投資に備えるため、誠に遺憾ではございますが、2024年3月期期末配当につきましては、無配とさせていただきます。

	2023年 3月期	2024年3月期			増減	
		当初計画	修正計画	実績	前年度比較	修正計画比較
親会社株主に帰属する 当期純利益 (△は損失)	△444	600	100	<b>220</b>	+665	+120
期末配当金 (円)	0円	5円	0円	<b>0円</b>	-	-



□ 2024年3月期 決算概要



■ 2025年3月期 業績予想



□ 中期経営計画（2021～2025年度）の修正



□ 参考資料



## 環境予測

- 物流の2024年問題や人手不足に加えて、世界情勢の悪化や米中の緊張感の高まりから、物流コストや原材料価格の上昇が懸念される
- 環境意識の高まりにより天然材料としてのパーム油の需要が増大する一方、天候不順による生産量減少も重なり、油脂原料の価格高騰が想定される
- 国内可塑剤メーカーの設備老朽化と需要減による設備過剰から、生産集約が進む
- AIや自動車のセンサー、制御システムなどの先端分野で半導体需要が加速

## 事業戦略

- 修正中期経営計画を確実に達成するべく、モノづくり力の向上とポートフォリオ組換えを進め、収益基盤の強化を急ぐ

### モノづくり力の向上

安定的かつ高品質な製品提供体制を確保し、既存事業の体質を強化する

### ポートフォリオ組換えの加速

新規開発品の早期事業化に向け、国内外のパートナーと連携する

- 売上高330億円、営業利益 5 億円の増収増益を見込む
- 期末配当は1株当たり 3 円、配当性向は18.6%を予定

（単位：百万円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	当期比較	
			増減額	増減率
売上高	32,863	33,000	+136	+0.4%
営業利益	361	500	+138	+38.2%
経常利益	780	800	+19	+2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	220	600	+379	+171.8%
期末配当金（円）	0円	3円	+3円	-
配当性向（%）	-	18.6%	-	-

## ■ 過去4年間の推移および2025年3月期の業績予想

(単位：百万円)







□ 2024年3月期 決算概要



□ 2025年3月期 業績予想



■ 中期経営計画（2021～2025年度）の修正

□ 参考資料



## ◆ 2025年度（2026年3月期）の経営目標

	当初目標	修正目標
売上高	360億円	340億円
営業利益	22億円	8億円
ROE	8.0%	6.0%以上

■ 2026年度からの次期中期経営計画は、2025年度中に発表予定。

**VISION  
2030**



## Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、  
世界をより、健やかで豊かなものに、  
毎日をもっと、心ときめくものに。

**中期経営  
計画  
2021～  
2025**

### ◆ 基本コンセプト

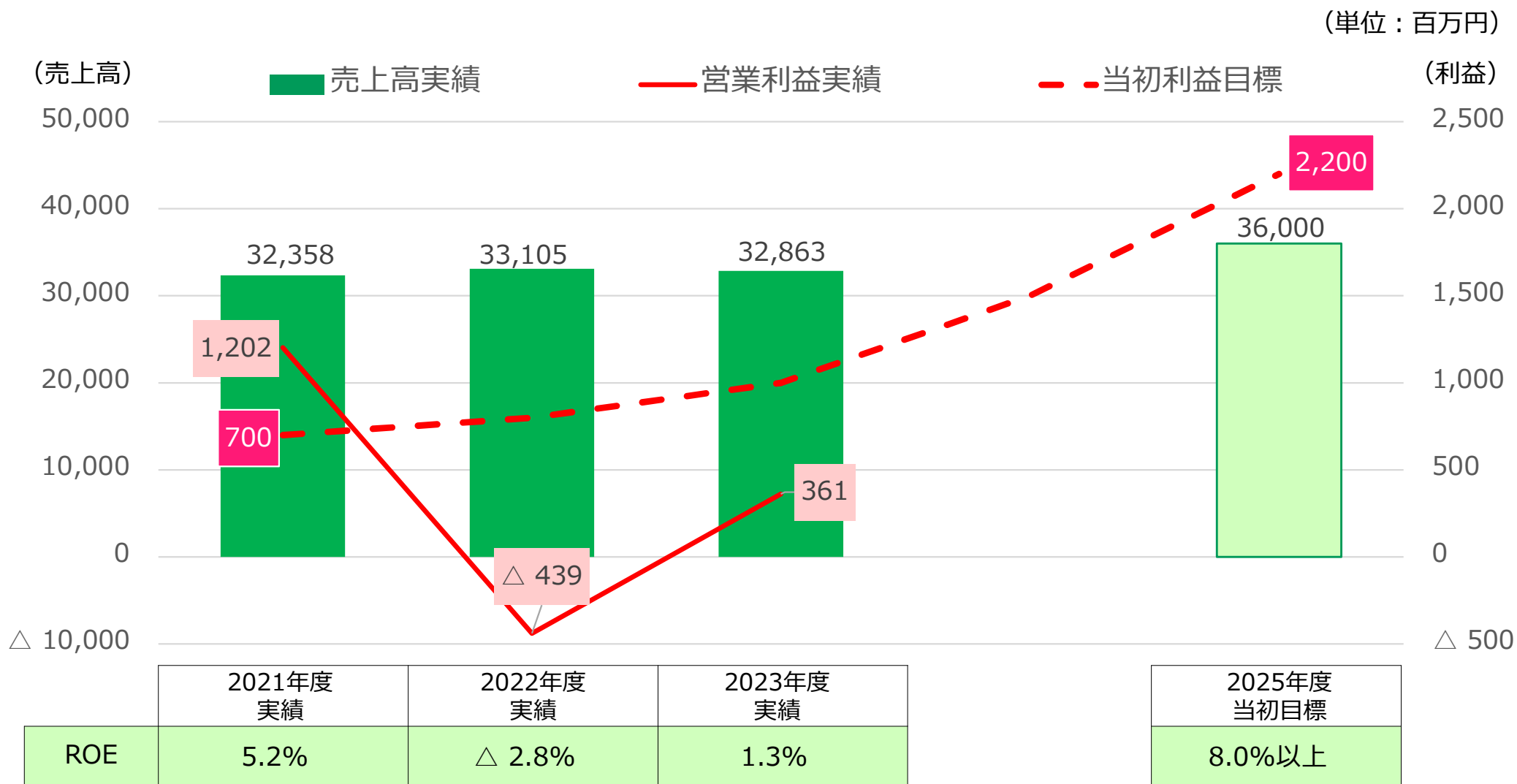
- | 環境・社会・人（命）に関わる課題に果敢にチャレンジし、価値創造企業を目指す。
- | 情報・通信、モビリティ、ライフサイエンス、環境ソリューションの4領域に経営資源を集中し、成長戦略を実現する。

### ◆ 事業戦略

- | 稼ぐ力の再構築
- | 技術革新による競争優位の獲得
- | CSRの推進
- | 組織再編と人材育成の強化

事業戦略	進捗状況（2021～2023年度）
稼働力の再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>｜ステアリン酸事業からの撤退（既存事業のスクラップ）</li> <li>｜可塑剤・酸無水物の製造拠点集約（既存事業のビルド）</li> <li>｜デジタルを活用した生産業務の標準化に着手（コストダウン）</li> <li>｜政策保有株式の縮減（資産効率の向上）</li> </ul>
技術革新による競争優位の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>｜京都R&amp;Dセンターの開設、社外との技術交流・共同研究の推進</li> <li>｜環境価値の高い結晶核剤の開発</li> <li>｜油脂技術・エステル技術を活用したバイオマス由来製品の拡充</li> <li>｜製造技術の高度化による既存製品の高付加価値化</li> </ul>
CSRの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>｜CSR委員会をはじめとするCSR推進体制の構築</li> <li>｜CSR報告書の発行開始</li> <li>｜2050年CN達成に向け、グループ横断のCN推進室を新設</li> <li>｜各工場でグリーン電力・CNガスの調達を開始</li> </ul>
組織再編と人材育成の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>｜挑戦型人材の発掘・育成のため、人事評価制度を刷新</li> <li>｜キャリア採用強化による人材の多様化と働き方の柔軟化</li> </ul>

# 2021~2023年度の業績推移



外部要因		内部要因
ポートフォリオ 組換えの遅れ	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ ノンコア事業撤退に対する覚悟と戦略の不足</li> <li>┃ 新規開発品の事業化の遅れ (リソースの配分不足、法規制対応の長期化)</li> </ul>
販売数量の 目標未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ 世界的な半導体不足から情報・通信分野の需要が低迷した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ ノンコア製品撤退による数量減を補う戦略商品の不足</li> <li>┃ トラブルにより主要原料の調達に支障をきたし、販売機会を喪失した。</li> </ul>
海外販路 開拓の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ コロナ禍により人・モノの移動が制限された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ 海外渡航が制限される中、有効な海外開拓策を打ち出せなかった。</li> <li>┃ 中国経済の不調が続く中、他市場へ戦略的にシフトできなかった。</li> </ul>
高コスト 体質からの 脱却遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ 原材料（ナフサ・油脂）およびエネルギーコストの高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>┃ 各種コストの高騰に対し、機動的に価格転嫁できなかった。</li> <li>┃ 生産業務の標準化は道半ばであり、省人化には至っていない。</li> <li>┃ 組織全体でのコスト意識の不足</li> </ul>



- 乖離の真因は「市場ニーズと当社のモノづくり力とのギャップの顕在化」および「ポートフォリオ組換えの遅れ」にあると認識
- 本計画後半の2年間は、上記2点の克服を重点課題として取組みを強化する

## モノづくり力の向上

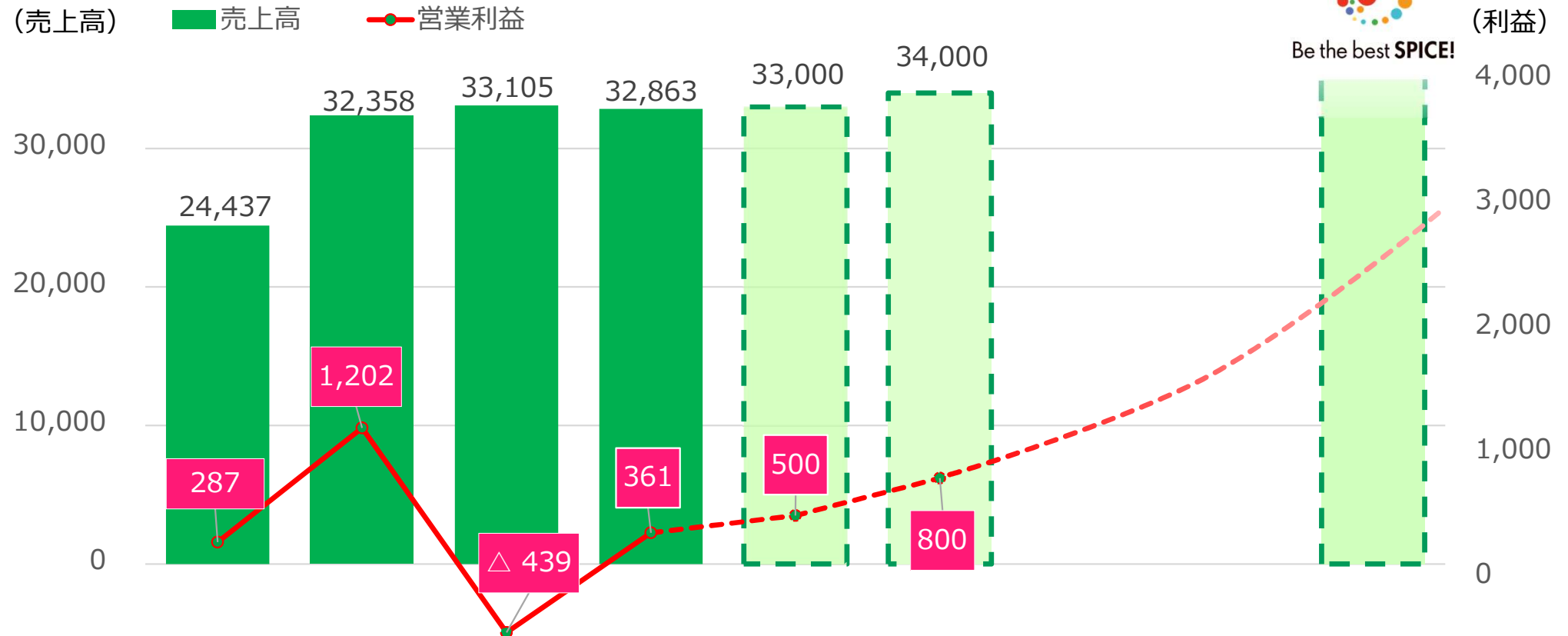
- | 原料調達ソースを分散・多様化し、サプライチェーンを強化する。
- | 設備管理のデジタル化を進め、予防保全の徹底・生産トラブル防止に繋げる。
- | 品質管理を高度化し、高純度・高付加価値品の安定生産を確保する。
- | 生産工程を継続的に見直し、生産性と品質の向上を両立させる。
- | コスト意識と改善マインドを全社に浸透させる。

## ポートフォリオ組換えの加速

- | スクラップ&ビルド対象製品の分析・選定を継続的に行う。
- | 製品ラインアップ見直しに対応するフレキシブルな生産体制を確立する。
- | 製造委託を活用し、投資リスクを抑制しつつ事業展開スピードを加速する。
- | グループ海外拠点（台湾・韓国・欧州）を起点に海外への販路を広げる。
- | バイオマス製品など環境貢献製品の拡販とラインアップの拡充を進める。

## ■ 修正中期経営計画の着実な遂行により、利益構造の改革を目指す

(単位：百万円)



	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度予想	2025年度修正目標
ROE	3.5%	5.2%	△ 2.8%	1.3%	3.6%	<b>6.0%以上</b>

2026年度からの次期中期経営計画は、2025年度中に改めて発表

中期経営計画 (2021~2025年度)



# Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二のスパイスで、  
世界を健やかで豊かなものに、毎日を心ときめくものにしたい。

もの創りの会社、新日本理化は、  
これからも広く社会の発展に貢献してまいります。

本日は、ご清聴いただきありがとうございました。

【お問い合わせ先】

新日本理化株式会社 経営企画部

<https://www.nj-chem.co.jp/>



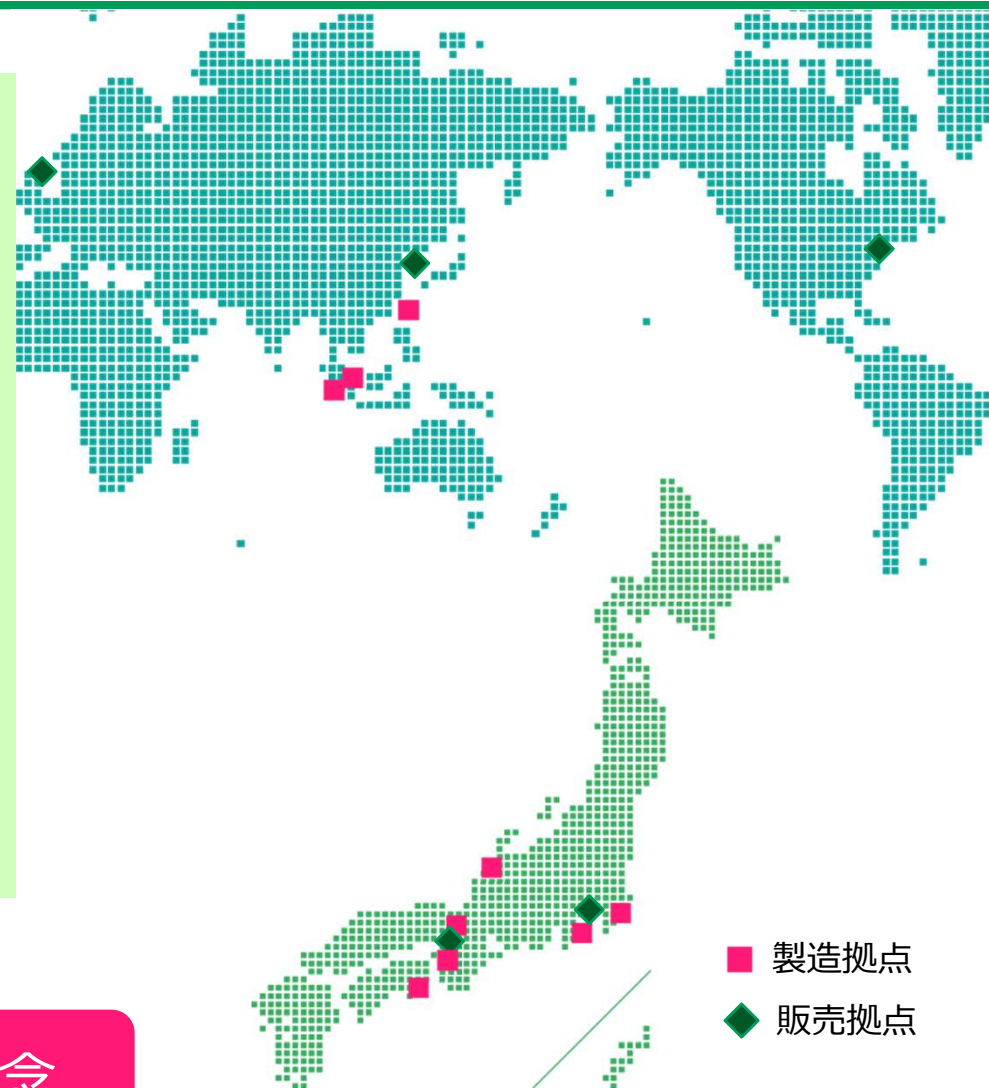


- 2024年3月期上期 決算概要
- 2025年3月期通期 業績予想
- 中期経営計画（2021～2025年度）の修正
- 参考資料



## 新日本理化株式会社

- 創業：1919年（大正8年）11月10日
- 資本金：5,660百万円
- 従業員数：410名（連結）[2024年3月末]
- 事業内容：化学製品の製造・販売
- 営業所：大阪（本社）、東京
- 工場：京都、徳島、川崎、堺
- 研究所：京都
- 関係会社：国内4社、海外6社



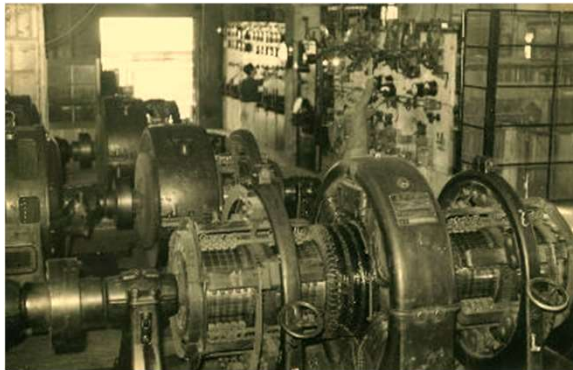
## 経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。



1920年

水の電気分解により製造した酸素ガスの販売を開始

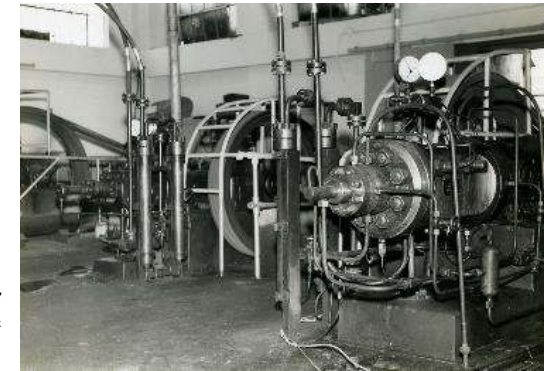


創業時の直流発電機

1951年

ヤシ油を水素化して高級アルコールを製造、可塑剤事業スタート

高級アルコール  
製造設備



1961年

水素化技術を活用して無水コハク酸を製造（日本初）

1922年

魚油に水素を添加して硬化油を製造、今日につづく水素化技術の始まり



硬化油工場

1982年

ポリオレフィンの透明性を改良する結晶核剤を開発、機能性化学品事業に進出



ポリオレフィン製容器

2001年

HDDのモーター向けの潤滑油を開発



内臓HDD

2022年

結晶化速度を大幅に改善した結晶核剤「RIKACRYSTA」を発売



RIKACRYSTA

2019年  
創業100周年

1993年

植物系（ヤシ油・パーム油）の不飽和アルコールを開発



パーム油

2021年

バイオマス可塑剤「グリーンサイザー」を開発、バイオマスマークを取得



バイオマス  
No.210315

バイオマスマーク

2023年

バイオマス由来化粧品原料「リカナチュラ」を開発

## 原料

## 製品分野（主な製品）

## 主な使用分野

天然油脂  
(ヤシ油、パーム油)

オレオケミカル

アルコール

界面活性剤

トイレタリー



化粧品



石油由来原料  
(ナフサから  
得られる基礎化学品)

可塑剤

耐熱性可塑剤

耐放射線可塑剤

自動車



住宅設備



合成樹脂原料

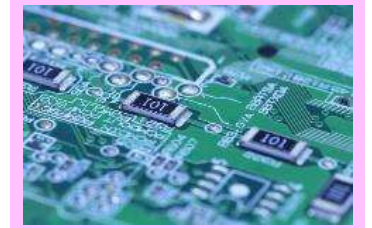
ポリエステル原料

エポキシ樹脂硬化剤

医療器具



電子製品



機能性化学品

結晶核剤

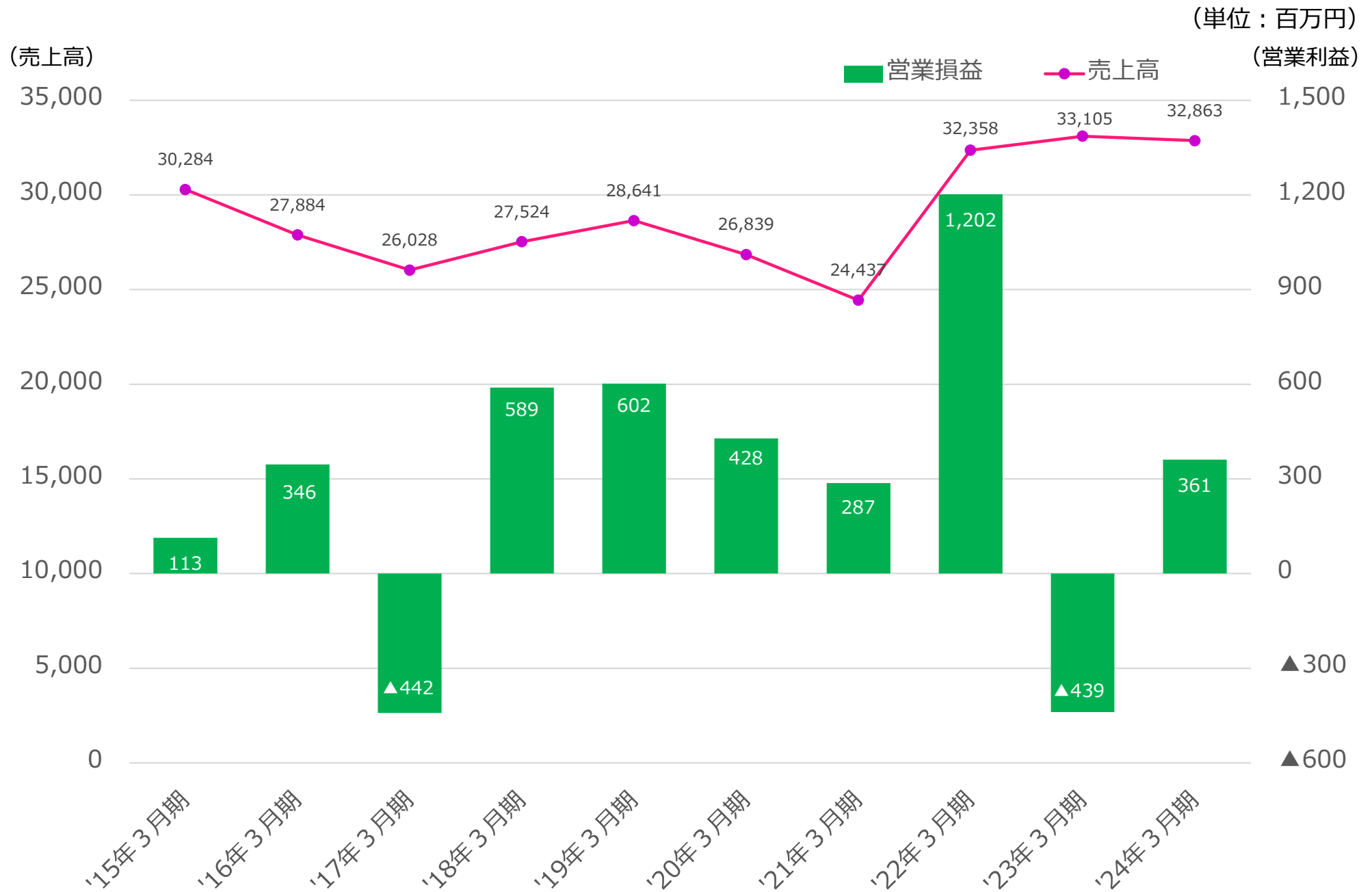
潤滑油

ポリイミド

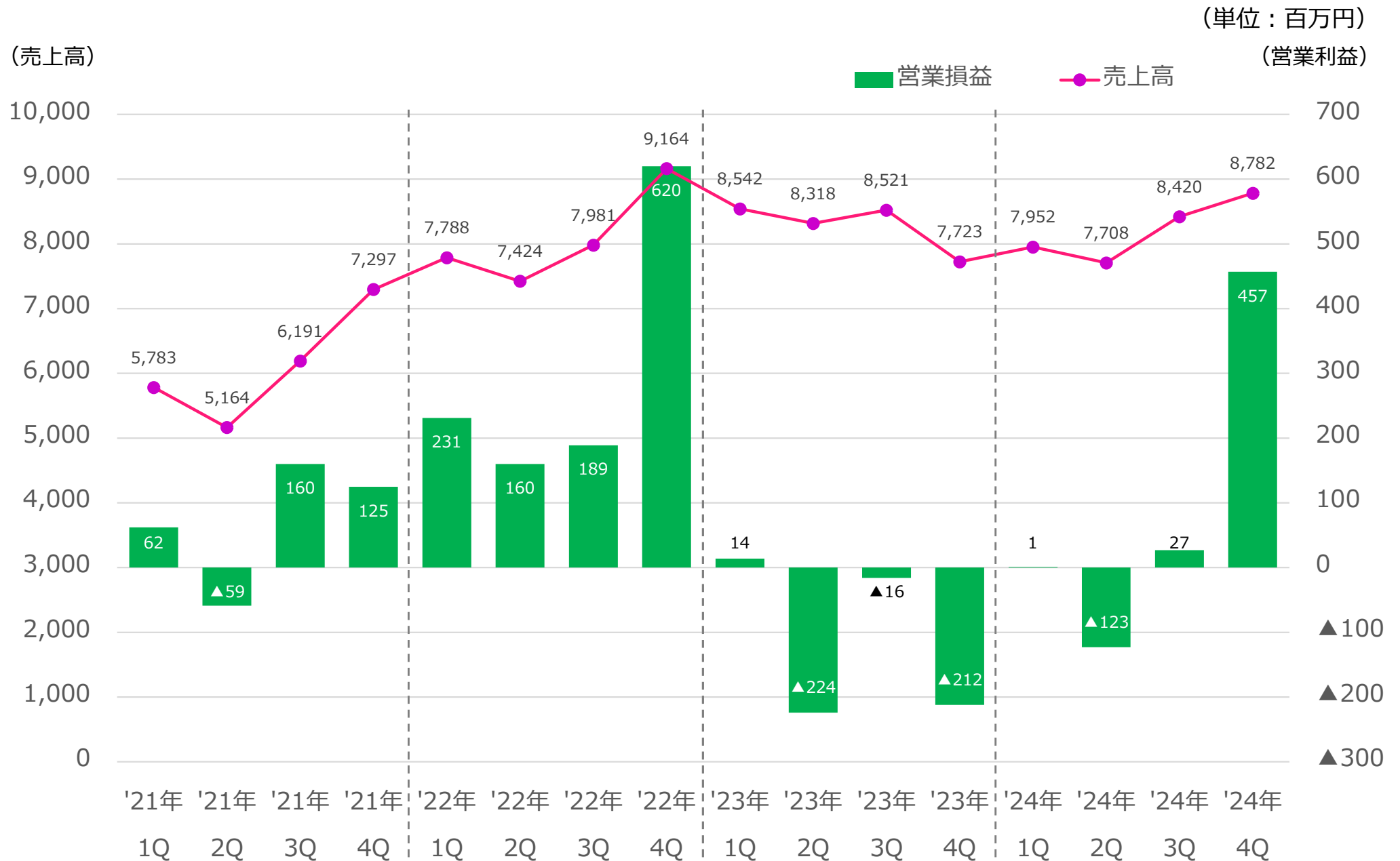
会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
日新理化株式会社	千葉県 市原市	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品である可塑剤、界面活性剤の製造</li> </ul>
アルベス株式会社	大阪府 大阪市	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務用洗剤等の製造および販売</li> <li>当社製品を含む化学製品等の仕入販売</li> </ul>
日東化成工業株式会社	神奈川県 横浜市	新日本理化 55.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属石鹼、塩化ビニル用安定剤等の製造および販売</li> </ul>
NJC Korea Co., Ltd.	大韓民国	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品の韓国向け販売</li> </ul>

会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
Edenor Oleochemicals Rika(M)Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 25.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>天然脂肪族アルコールの製造および販売</li> </ul>
台湾新日化股份有限公司	台湾	新日本理化 43.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種界面活性剤の製造および販売</li> </ul>
NJC Europe Ltd.	イギリス	新日本理化 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社製品を含む化学製品の販売</li> </ul>
Nice Rika Biotechnologies Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 30.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>界面活性剤の製造</li> </ul>

# 連結業績の推移



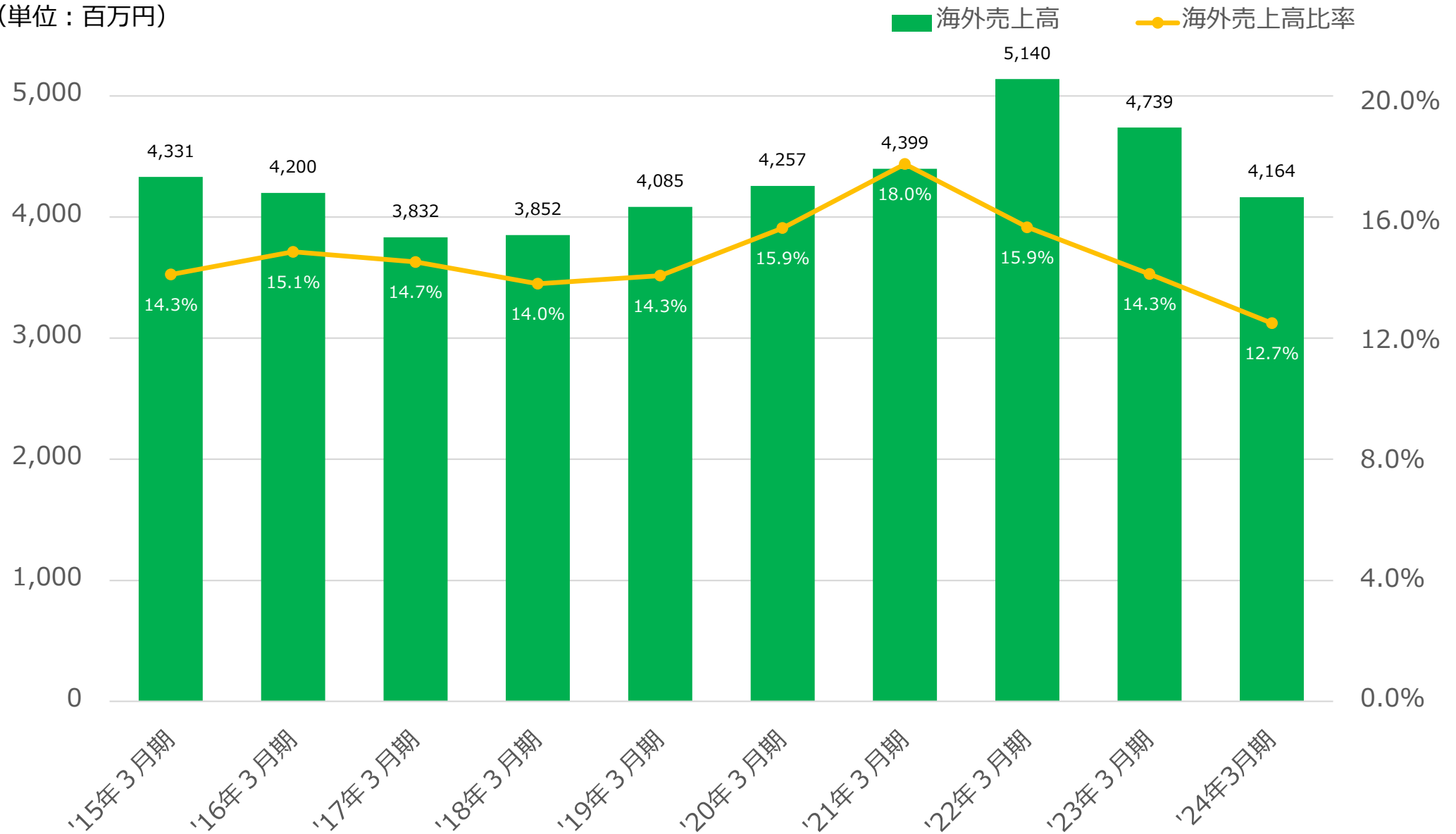
# 連結業績の推移（四半期）





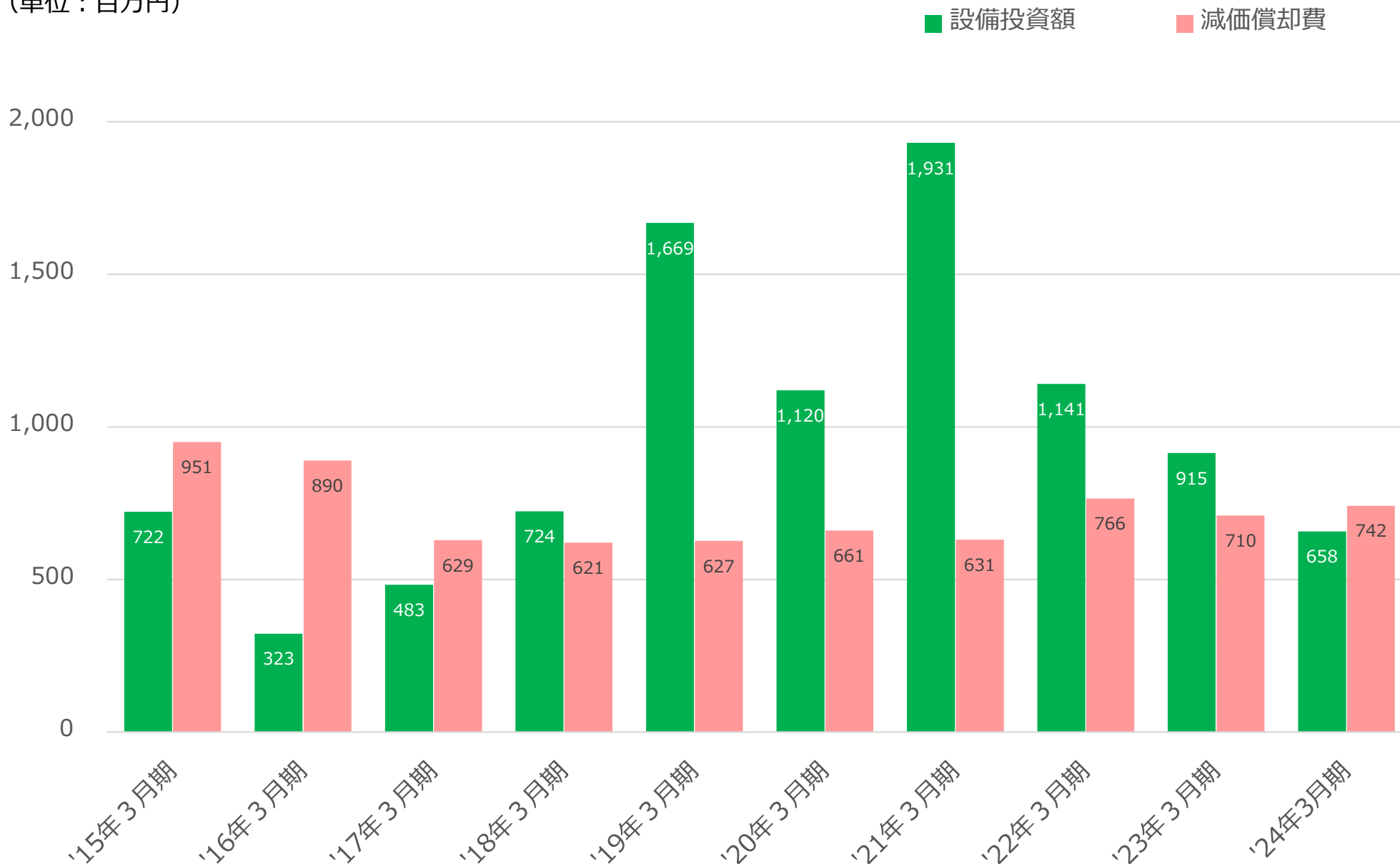
# 連結海外売上高の推移

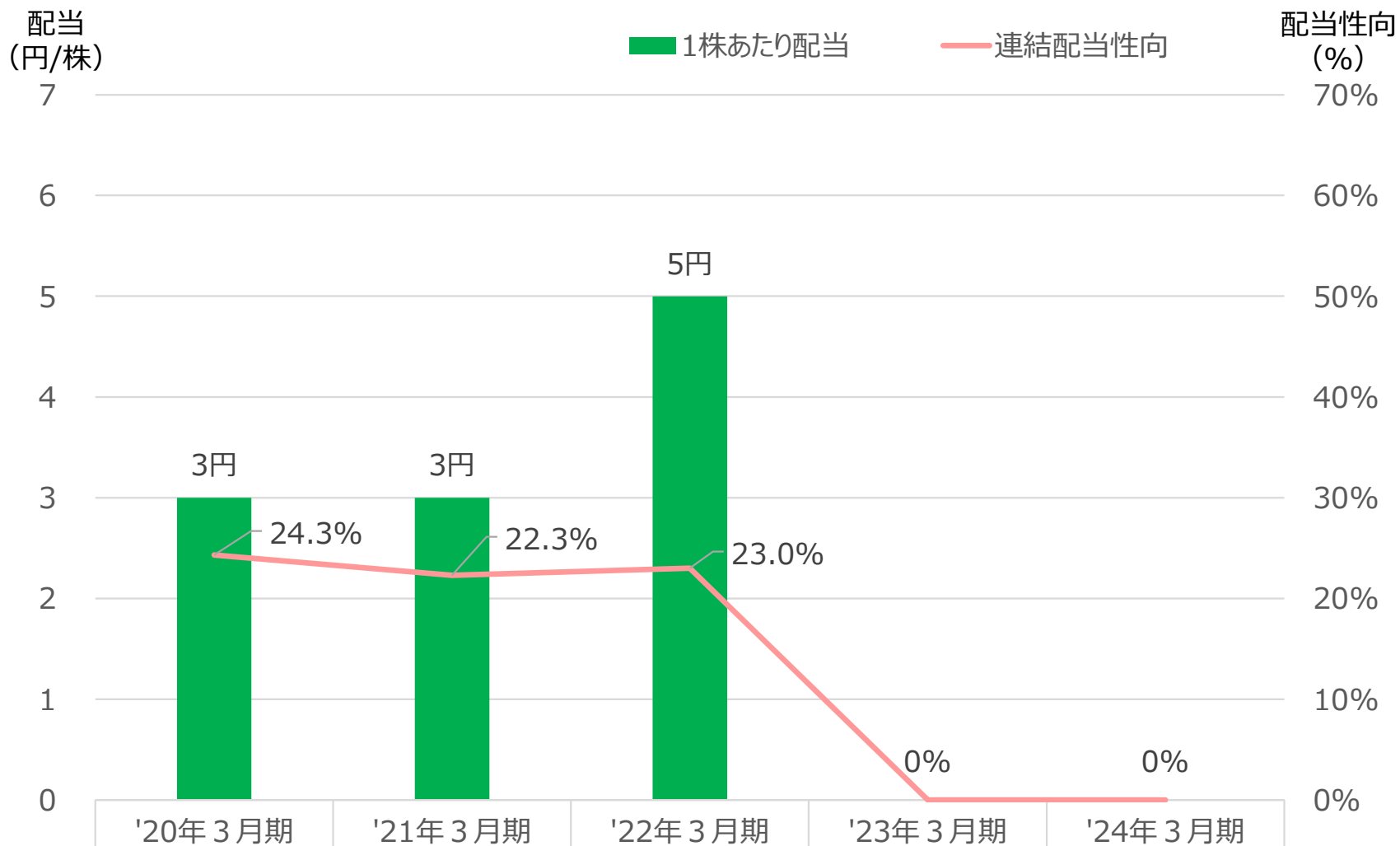
(単位：百万円)



# 設備投資と減価償却費の推移（連結）

(単位：百万円)





■ 1株あたり配当	3円	3円	5円	0円	0円
— 連結配当性向	24.3%	22.3%	23.0%	—	—

## <見通しに関する注意事項>

- 本資料に記載されている業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



# 新日本理化株式会社

---



Be the best **SPICE!**